

京都大学天皇事件(1951年)

なぜ大きく取り上げられたのか？

「逆コース」という時代

・ 米ソ冷戦時代へ

「民主化」の後退

・ 吉田茂内閣による「天皇権威再編成」政策

天皇権威の再浮上と再編成

・ 朝鮮戦争の勃発（1950年）

「再軍備」による学生の不安

「人間」天皇をめぐる

・ 巡幸に対する不満

「表面糊塗」という現象

・ 戦後民主主義の理想化

→天皇の「人間」としての側面

・ 公開質問状

学生の「理性」を表出した文章

## 学生の行動に対する反応

- ・ 共産党との結びつき

反体制運動として位置づける

治安対策強化を提唱

- ・ 天皇に対する感情

天皇の権威・威厳を根底に据えた学生批判

- ・ 学生擁護の意見

社会の反応を批判

## まとめ

- ・ 「逆コース」 中での「象徴」 天皇の役割

- ・ 「象徴」 をめぐる解釈の対立

## 参考文献

- ・ 河西秀哉『天皇制と民主主義の昭和史』（人文書院、2018年、第四章）

- ・ 河西秀哉「敗戦後における学生運動と京大天皇事件」

（『京都大学大学図書館研究紀要』5号、2007年）

[http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/68871/1/kua5\\_17.pdf](http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/68871/1/kua5_17.pdf)